

審議会等の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	第5回 立川市地域福祉推進委員会・第5次立川あいあいプラン 21 推進委員会 合同会議
開催日時	令和3年5月27日（木曜日）午後6時00分～8時15分
開催場所	立川市総合福祉センター 2階視聴覚室（オンライン開催）
次第	2021年度新任担当者及び委員長あいさつ - 前回の振り返り - 今年度委員会のスケジュールについて - 重点推進事項の進捗報告 3つの重点推進事項の目標達成に向けた具体的取組みの検討 - グループ「地域福祉アンテナショップの設置」 - グループ「地域福祉コーディネーターの活動強化」 - グループ「まるごと相談支援」 - グループワーク発表 - 委員長よりコメント - その他、次回日程等
配布資料	- 重点取組「『まるごと』相談支援」および「地域福祉コーディネーターによる地域づくり（活動強化）」に関する検討資料 - 立川市地域福祉アンテナショップ設置要綱（案） 2021年度 立川市地域福祉推進委員会・第5次立川あいあいプラン 21 推進委員会 合同会議 スケジュール(案) - 施策目標（例） - 第5次立川あいあいプラン 21 事業推進のための参考指標 - 地域福祉推進のための指標づくり報告書 - 重点推進事項にかかる評価指標案
出席者	〔委員〕 熊田博喜（委員長）、宮本直樹（副委員長）、石田芳朗、井村良英、菊池萌、菅根浩子、高田利花、野々久美子、藤原紀子、宮崎彩乃、文淑礼、山川清隆 〔事務局〕 <立川市> 白井貴幸（福祉総務課長）、高橋知宏（地域福祉推進係長）、辻陽平（地域福祉推進係） <立川市社会福祉協議会> 山本繁樹（地域活動推進課長）、枝村珠衣（主幹）、伊藤尚拡、栗野恵莉菜（経営総務係）、柳澤実（地域づくり係長）、小林理哉、高橋美季（地域づくり係） <オブザーバー> 伊藤和香子（立川市福祉保健部高齢福祉課地域包括ケア推進係長）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果	次回は令和3年7月29日(木)午後7時00分～9時00分、立川市役所で第6回委員会を開催。3つの重点推進事項の目標達成に向けた具体

	的取組みについて引き続き検討する。
担当	立川市社会福祉協議会 地域活動推進課 電話 042-529-8300（代表）

主な意見、質疑応答

【7. 委員長よりコメント】

＜委員長＞今回いただいた意見を集約して、もう一度検討する時間を設ける必要がある。
もう少し時間をかけてストーリーを組んでいく必要がある。

グループワークの発表に対する委員長のコメント

○地域福祉アンテナショップの設置について

ダイバーシティの促進と、周知方法についての内容だった。ダイバーシティについては、「行くと元気になる」というストーリーが大事である。

○地域福祉コーディネーターの活動強化について

ストーリーを作り込んでいく中で、住民がコーディネートするという可能性を開いても良いのではないかということ、地域福祉コーディネーターを増やすだけではなく、地区を12地区まで小さくして各地区に配置すること、皆でストーリーを作り出せる場所を作り込んでいくことが大事であるということを示してもらった。

○まるごと相談支援について

ソフト面とハード面で整理してもらった。ソフト面では、共感や感度の良さ、人材の育成が大事。それを測る指標として、例えば「この子を地域で支えてほしい」というように、地域にお願いができるようなことが増えると、まるごと相談支援が進んでいるということにつながるのではないか。

ハード面では、地域福祉アンテナショップと同じように、場所を増やすだけではなく、わかりやすくする必要がある。目標達成において、ネーミングが一つ重要になってくると思われる。また、外国ルーツの子どもたちが見落とされやすい。達成へのストーリーの中に、どのように位置付けていくか。

以上

立川市地域福祉推進委員会・第5次立川あいあいプラン21推進委員会 第5回委員会

グループワーク Aグループまとめ

参加者：井村委員、菊池委員、文委員、宮崎委員

事務局：白井（立川市）、山本・小林・栗野（社協）

テーマ：3つの重点推進事項の目標達成に向けた具体的取組みの検討 （Aグループは地域福祉アンテナショップの設置について）

【広報、周知の方法について】

- ・様々なツールを用いた周知が大事。
- ・スペースを活用してくれる人たちをどのように増やしていくか。最近、地域のスペースの活用について、漠然としたものをまとめている。数ヶ月後、一年後、数年後に何ができるかを具体的に考えていくと、ストーリーが生まれる。まずはスペースの近くに住んでいる方々に周知をしていくことになった。
- ・団体と団体をつなぐことも大切。つなぐことは社協職員だけでなく、住民でもできるのではないかな。
- ・一人で複数の団体を立ち上げている人がいる。様々な活動の中心になり、広める力をもっている市民がいる。そういう市民を地域福祉コーディネーターが見つけて、活躍している人と地域福祉コーディネーターの両者から情報発信をしていくことができれば、早く広まるのではないかな。「この人に伝えたら、その知り合いに伝えてくれるだろう」という人は地域にいる。
- ・「私は立川の観光大使です」…楽しい要素があると良い。参加する人を増やす工夫が、ストーリーの中にあると良い。
- ・場があっても、その情報を広めることができているかどうかしきがある。やっぱり情報が広まるのは人づて。

【困っている人の居場所】

- ・困っている人が中心にいられる場所を、どのようにしたら地域につくることができるか。困っている人が中心になって、その輪が広がっていくようなストーリーが大事。
- ・困っていても、やりたいことやできることはある。生きがいややりがいを感じられる機会を。誰でも得意を発揮できる場所。知識、経験がなくても参加できるようなところがあると良い。
- ・集まれる人が集まることも大事であるが、排除される人が出るのではないかな。例えば、学習館は毎週その場所をその時間に使っている人たちがいる。それは学習館が地域に一つしかないから。地域に多くの学習館があったらそういうことにはならないと思う。配慮や気遣いということではなく、困っている人たちが堂々といられるようなところがあると良い。

【言いたいことを言える環境】

- ・実際に、特定の人しか意見を言えないような風習がある。そのような場所には行きたくないと言ってほしい。黙っていたら、ないものにされてしまう。その一人を怒らせることが目的ではなく、声を届けることが目的。言いたいことを言えるような環境が大事。
- ・事例がないからと、ないことにされてしまうのは悲しい。

【ダイバーシティの促進】

- ・地域福祉アンテナショップで相互理解が促進されると良い。支援が受けられる場所というよりは、元気になれる場所にしたい。
- ・立場は関係なく、20 人くらいのコミュニティが地域にたくさんあり、お互いに助け合える関係性になると良い。

立川市地域福祉推進委員会・第5次立川あいあいプラン21推進委員会
第5回委員会

グループワーク B グループまとめ

参加者：高田委員、菅根委員、宮本委員、山川委員

事務局：柳澤、高橋（社協）

テーマ：3つの重点推進事項の目標達成に向けた具体的取組みの検討
(Bグループは地域福祉コーディネーターの活動強化について)

【達成のためのストーリー】

- ・有償ボランティアの仕組み(有償でも誰でも活躍できる仕組み)を活用できないか
→地域に還元しながら少額のお金を稼ぐ

- ・取り組み案をどこまで達成できるかがストーリーになるのではないか
→取り組み案を住民視点で見えやすくしていきたい

- ・地域の中で、資格等を持っていて、仕事をリタイアされた方を、地域福祉コーディネーターが発掘する(お知り合いになる)ために活動を強化する
→活動の場があり、地域の中で活動が循環していく仕組みをつくる

- ・地域福祉コーディネーターの担当圏域を狭め(例えば各中学校学区に1人など)、地域格差をなくす取り組みをしていくべきである
→地域福祉コーディネーターを12名配置する

- ・住民間で連絡・連携の役割を進める
→グッドネイバーの活動を発展させるようなイメージ

【達成するための指標】

- ・地域福祉コーディネーターと生活コーディネーターの融合
→複合化した課題を解決するために

- ・地域福祉コーディネーターの応援団を、自治会連合会の12の地区につくる
→グッドネイバーの活動をリニューアルするようなイメージ

立川市地域福祉推進委員会・第5次立川あいあいプラン21推進委員会 第5回委員会

グループワーク Cグループまとめ

参加者：石田委員、藤原委員、野々委員

事務局：高橋・辻（立川市）

オブザーバー：伊藤（立川市）

テーマ：3つの重点推進事項の目標達成に向けた具体的取組みの検討 （Cグループはまるごと相談支援について）

「多様で複雑な困りごとに寄り添い、解決のお手伝いをする。相談支援包括化推進員と協働し、行政や専門機関と連携を図る」について、達成のためのストーリーを考えていく。

【相談窓口の質】

- ・相談窓口が沢山あることが大切。身近な相談内容が多く、民生委員、居宅介護に相談されることが多い。
- ・相談を受ける人の質（寄り添える力、専門機関へつなぐことができる知識）の向上・育成が大切。
- ・地域の視点でケアするという考えが希薄であるように感じる（高齢者分野はケアマネで診る考え方があるのだが）。地域への関わりを持つことで、はじめて地域での視点も芽生えてくると思われる。
- ・相談先が明確化してあればワンストップになるので、相談しやすい。
- ・高感度に繋げられる人材を地域の方が担えるかが肝心。
- ・学校現場で残念に思ったのは、日本語に課題のある子供のケアが必要ということ。

【相談支援包括化推進員の質の向上について】

- ・相談支援包括化推進員の2人が、地域ケアに関心を持っている人をいかに吸い上げるか。
- ・相談者員の質が大事→研修等による育成、学びの機会を作って、例えば、資格等のバッジを与えてPRしていくのも良いのでは。育てて継続してもらう仕組みがあるとよい。
- ・相談場所の問題（位置として）。窓口の場所を分かりやすく。
- ・すぐに相談できる環境が必要と感じる。

【相談支援包括化推進員の位置づけ】

- ・相談支援包括化推進員は、肩書的な意味でどんな組織に在席しているのでしょうか？外部からの見え方は大事だと思う。
- ・〈事務局〉組織的な部分は、重層的支援体制整備を含めて福祉保健部内で検討中である。
- ・組織の体制次第では、相談員への認知度も芽生え、立川市の本気度が見える。「すぐやる課」などは、他自治体であった例もある。

【実例において】

- ・特に保育園などは、言語発達の時期であるのに、そのまま放っておくと、小学校に入学してから、言葉がわからなくて大変になる。
- ・先生と親と本人と会って、就学前の大事な時期を失っていることが原因だと分かった。これを取り返すには、相当な時間が必要。その後の勉強や精神面の成長に影響する。
- ・〈オブザーバー〉 タイミングが大事。まるごと相談などの専門員も重要だが、相談員の目の届かない部分を気づけるような地域づくりが大事。

【達成するための指標について】

- ・「達成するための指標」とは、意味をとらえにくい。
- ・目標に向かって、どこまでいけば達成したことになるか、という可視化された数値や状態のことである。